

石川県の企業の課題解決を活用した研究調査方法の実践： 災害物流の改善をテーマに

団体名●中尾公一 基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ／代表者名●中尾公一（経済学部経営学科）

はじめに(背景・目的・目標)

この活動は、経済学部経営学科の2年生の基礎専門ゼミナールを対象に、石川県中小企業家同友会地域政策委員会の野々市運輸機工株式会社(代表取締役社長：吉田章氏、金沢市)のご協力を得て、吉田社長から提示のあった災害物流の改善方法について、ゼミ生達が大学で学んだ理論的内容とフィールドワークに基づき課題の解決策の提案を行うものである。

活動内容

まず教科書や関連映像等を確認しながら、物流に関する基礎知識を学び、次の活動を重ねた。

①一般社団法人石川県トラック協会や会員企業による講義(2024年6月28日、同10月4日。於：本学)

吉田社長に加え、同協会の岡村論適正化事業課長、北陸貨物運輸株式会社山田実紀秀専務(当時)から能登半島地震の際の支援物資の集積場となった産業展示館の様子について講義を頂いた。また10月には、株式会社北陸貨物運輸と丸福物流有限会社からや災害時の道路状況やトラックドライバーを取り巻く環境や課題について説明を受けた。

②フィールドワークⅠ(2024年7月5日)

野々市運輸機工株式会社を訪問し、吉田社長からの講話を伺うとともに、手作業とフォークリフトの作業効率の違いを体感した(同社作成のTiktok動画(<https://www.youtube.com/shorts/V8n-gabqyI4>)参照)。

③石川県トラック協会(以下、「石ト協」)関係者と調査設計のための打合せ(2024年7月26日：本学)

学生の発案で、物資の送り手班、道路班、避難所班、被災者班、過去災害班(2016年4月熊本地震との比較)にゼミ生の役割分担を行い、調査項目案について石ト協、(株)野々市運輸機工、(株)北陸貨物運輸、(株)東崎倉庫運輸から助言を受けた。

④ゲスト講義(2024年10月11日、18日、20日)

オンラインで、令和6年度能登半島地震の被災自治体の職員、被災者となった本学OBから発災時の状況や対応、困りごとを伺った。10月18日には、全



写真 調査設計で専門家から助言を得る

日本トラック協会北信越ブロック大会を観覧し、石川県トラック協会の会員の方々の発災時の体験や道路状況、支援活動などのお話を伺った。

⑤フィールドワークⅡ(2024年11月8日)

令和6年度能登半島地震の被災地となった穴水町や珠洲市を日帰りで視察し、その往復で、発災から10ヶ月後の道路状況や建物の損壊状況、そして金沢市から穴水町、珠洲市までの距離や所要時間も確認。

また珠洲市正院公民館の小町康夫館長ご夫妻から能登半島地震の発災から3月下旬までの避難所運営の状況やお困りごとを伺うとともに、記録資料を確認した。また合同会社CとHが運営するOKNO to Bridge 奥能登ブリッジと震災により損壊した旧施設などを視察し、同社の伊藤紗恵氏と橋本勝太氏から発災時の道路状況等を聴取した。

成果

研究成果は2024年12月に、富山大学との合同ゼミ、石川県トラック協会関係者、石川県中小企業家同友会関係者に向けて調査発表を行った。関係者からは、熊本地震との比較対照表の分かりやすさや仮設トイレより凝固剤の運搬を提案した学生に賛辞が送られた。また業界紙物流ニッポンの取材を受け、2025年の新年号に掲載され、同年2月には2グループが学内のゼミコンで優秀賞を受賞した。

今後の展望

今後は災害物流に関心をもつ学生達と、このテーマを深めてまいりたい。